

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	約5年間（2015年9月30日～2020年9月18日）	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ外貨建て日本社債マザーファンドの受益証券
	ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、日系企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>③保有実質外貨建資産については、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。 ※保有実質外貨建資産とは、当ファンドが保有する外貨建資産およびマザーファンドが保有する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした外貨建資産をいいます。</p>	
マザーファンドの運用方法	<p>①運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（R&amp;I、JCR、S&amp;P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上）とします。</p> <p>ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。</p> <p>②為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>	
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれが多い額とし、原則として、基準価額の水準および経費控除後の配当等収益の水準等を勘案し、元本超過額の範囲内で分配することをめざします。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

## 外貨建てニッポン社債ファンド （為替ヘッジあり）2015-09 （愛称：日本のめぐみ15-09）

# 運用報告書（全体版） 第6期

（決算日 2018年9月25日）

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「外貨建てニッポン社債ファンド（為替ヘッジあり）2015-09（愛称：日本のめぐみ15-09）」は、このたび、第6期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先（コールセンター）

TEL 0120-106212

（営業日の9：00～17：00）

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

## 設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券先物 比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定 (2015年9月30日)	円 10,000	円 -	円 -	% -	% -	% -	% -	% 100.0
1期末 (2016年3月22日)	10,090	100	190	1.9	4.0	93.2	-	97.9
2期末 (2016年9月23日)	10,287	100	297	2.9	4.9	93.5	-	73.4
3期末 (2017年3月22日)	9,935	0	△352	△3.4	0.9	93.5	-	69.4
4期末 (2017年9月22日)	10,053	50	168	1.7	1.5	98.5	-	44.4
5期末 (2018年3月22日)	9,786	0	△267	△2.7	0.1	94.1	-	38.8
6期末 (2018年9月25日)	9,662	0	△124	△1.3	△0.3	98.6	-	34.1

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

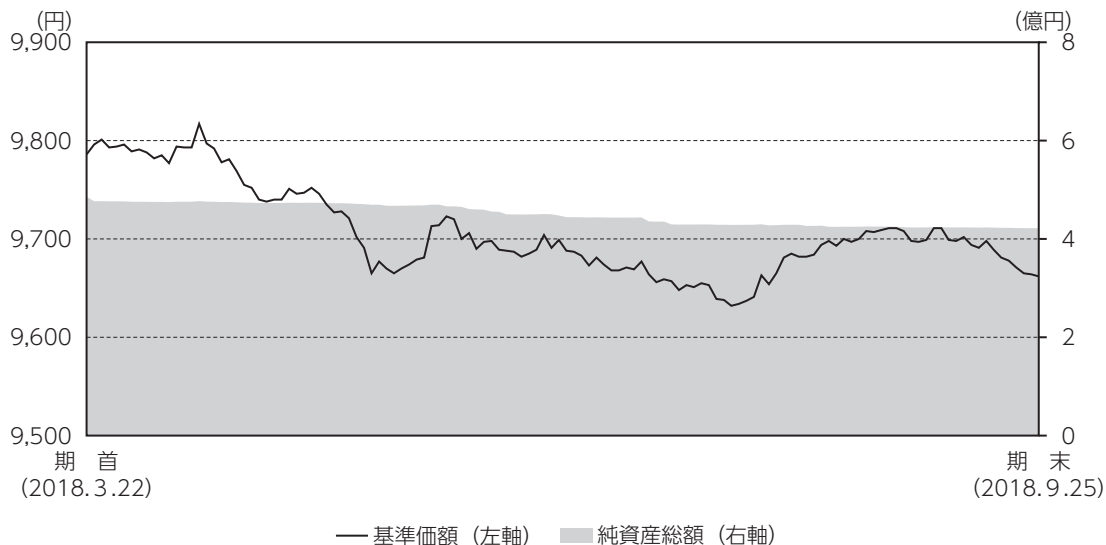
(注4) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載していません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



#### ■ 基準価額・騰落率

期首：9,786円

期末：9,662円

騰落率：△1.3%

#### ■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラスに寄与しましたが、社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

外貨建てニッポン社債ファンド（為替ヘッジあり） 2015-09

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率	債 券 先 物 率
		騰 落 率	率		
(期首) 2018年3月22日	円	9,786	% -	% 94.1	% -
3月末		9,789	0.0	95.2	-
4月末		9,740	△0.5	99.1	-
5月末		9,714	△0.7	97.1	-
6月末		9,681	△1.1	97.4	-
7月末		9,641	△1.5	97.2	-
8月末		9,699	△0.9	97.6	-
(期末) 2018年9月25日		9,662	△1.3	98.6	-

(注) 騰落率は期首比。

## 投資環境について

(2018.3.23~2018.9.25)

## ■米国債券市況

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇（債券価格は下落）しました。

期首より、米中貿易摩擦への懸念が後退したことなどを背景に金利は上昇傾向となったものの、2018年5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド（国債に対する上乗せ金利）が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

## 前期における「今後の運用方針」

## ■当ファンド

「ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

## ■ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ポートフォリオについて

(2018.3.23~2018.9.25)

## ■当ファンド

「ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

## ■ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期は、分配方針に則り、元本超過額がないため、収益の分配を見送らせていただきました。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が6,851,634円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益6,851,634円（1万口当り156.94円）が分配対象額となりますが、上記の理由により、分配を行なっておりません。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

「ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

### ■ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2018.3.23~2018.9.25)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	68円	0.705%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,706円です。
(投 信 会 社)	(27)	(0.277)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.415)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.013	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	70	0.718	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ■売買および取引の状況

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2018年3月23日から2018年9月25日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド	-	-	70,862	85,800

(注) 単位未満は切捨て。

## ■利害関係人との取引状況等

当期中における利害関係人との取引はありません。

## ■組入資産明細表

## 親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	□ 数	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド	409,818	338,955	424,507	

(注) 単位未満は切捨て。

## ■投資信託財産の構成

2018年9月25日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド	424,507	97.2
コール・ローン等、その他	12,056	2.8
投資信託財産総額	436,563	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月25日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝113.02円です。

(注3) ダイワ外貨建て日本社債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（10,607,890千円）の投資信託財産総額（10,668,060千円）に対する比率は、99.4%です。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月25日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	846,732,572円
コール・ローン等	12,056,386
ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド(評価額)	424,507,315
未収入金	410,168,871
(B) 負債	424,928,977
未払金	421,918,244
未払信託報酬	2,992,108
その他未払費用	18,625
(C) 純資産総額(A - B)	421,803,595
元本	436,572,295
次期繰越損益金	△ 14,768,700
(D) 受益権総口数	436,572,295口
1万口当り基準価額(C / D)	9,662円

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,662円です。

\* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は14,768,700円です。

## ■損益の状況

当期 自2018年3月23日 至2018年9月25日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 1,394円
受取利息	1
支払利息	△ 1,395
(B) 有価証券売買損益	△ 37,208,757
売買益	307,075
売買損	△ 37,515,832
(C) 有価証券評価差損益	34,517,615
(D) 信託報酬等	△ 3,200,899
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	△ 5,893,435
(F) 前期繰越損益金	△ 10,642,866
(G) 解約差損益金	1,767,601
(H) 合計(E + F + G)	△ 14,768,700
次期繰越損益金(H)	△ 14,768,700

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。



# ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド

## 運用報告書 第9期 (決算日 2018年9月25日)

(計算期間 2018年3月23日～2018年9月25日)

ダイワ外貨建て日本社債マザーファンドの第9期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。</p> <p>※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>ロ. 流動性を確保するため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてBBB格相当以上（R&amp;I、JCR、S&amp;P、フィッチのいずれかでBBB-以上またはムーディーズでBaa3以上）とします。</p> <p>ニ. 金利リスク対応のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての債券先物取引を利用することがあります。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

## 大和投資信託

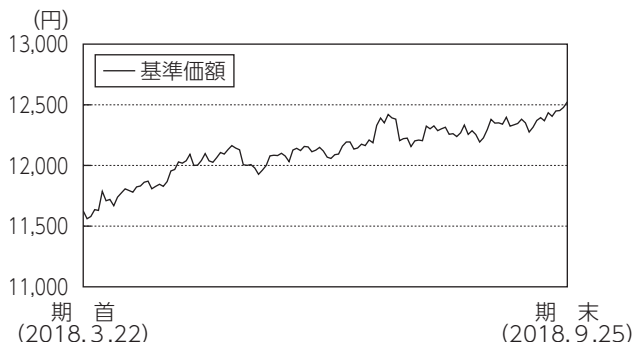
Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

# ダイワ外貨建て日本社債マザーファンド

## ■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	債 券 先 物 率 比
	円	騰 落 率		
(期首) 2018年3月22日	11,625	-	95.9	-
3月末	11,709	0.7	96.3	-
4月末	12,019	3.4	98.4	-
5月末	11,961	2.9	98.8	-
6月末	12,159	4.6	96.6	-
7月末	12,204	5.0	97.6	-
8月末	12,324	6.0	97.7	-
(期末) 2018年9月25日	12,524	7.7	97.9	-

- (注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。  
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。  
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

## 《運用経過》

### ◆基準価額等の推移について

#### 【基準価額・騰落率】

期首：11,625円 期末：12,524円 騰落率：7.7%

#### 【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、社債金利の上昇(債券価格の下落)はマイナス要因となったものの、保有債券からの利息収入や円安米ドル高がプラスに寄与したため、基準価額は上昇しました。

### ◆投資環境について

#### ○海外債券市場

米国債券市場では、国債や社債の金利が上昇(債券価格は下落)しました。

期首より、米中貿易摩擦への懸念が後退したことなどを背景に金利は上昇傾向となったものの、2018年5月後半に入ると、イタリアの政治情勢に対する懸念が高まり、金利は急速に低下しました。その後は、イタリアの政治情勢への懸念が和らいだことに加え、FOMC(米国連邦公開市場委員会)で利上げが実施されたことや雇用統計で賃金上昇率が予想以上の伸びになり、インフレ率の上昇が懸念されたことを背景に、金利は上昇しました。

こうした環境下、米ドル建ての社債については、期首より市場のリスク回避姿勢が強まったことを背景にスプレッド(国債に対する上乗せ金利)が拡大したものの、2018年6月以降は反転し、期末

にかけて拡大幅を縮める展開となりました。

#### ○為替相場

米ドルは対円で上昇しました。

期首より、米中貿易摩擦への懸念が後退したことや米国金利の上昇などを背景に、米ドル円は上昇しました。2018年5月後半には、イタリアの政治情勢に対する懸念から円高圧力が一時強まりましたが、その後は、FOMCにおいて利上げの加速が示唆されたことや株価が堅調に推移したことなどから、米ドル円は上昇する動きとなりました。7月後半からは、日銀が長期金利の上昇を容認するとの観測から円高圧力が強まり、米ドル円は上値が重い展開が続いたものの、9月以降は、米国金利の上昇等を背景に米ドル円は上昇しました。

### ◆前期における「今後の運用方針」

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

### ◆ポートフォリオについて

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

### ◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 《今後の運用方針》

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

## ■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用	1
(保管費用)	(1)
(その他)	(0)
合 計	1

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2018年3月23日から2018年9月25日まで)

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	社債券	千アメリカ・ドル -	千アメリカ・ドル 13,073 ( - )

- (注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 社債券には新株予約権付社債券（転換社債券）は含まれておりません。  
 (注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2018年3月23日から2018年9月25日まで)

当			期		
買		付	売		付
銘	柄	金 額	銘	柄	金 額
		千円			千円
			Chiba Bank Ltd/The (日本)	2.75% 2020/7/29	321,258
			Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd (日本)	2.5% 2020/3/9	217,603
			Nippon Life Insurance Co (日本)	5% 2042/10/18	171,470
			Sompo Japan Insurance Inc (日本)	5.325% 2073/3/28	159,951
			Mitsui Sumitomo Insurance Co Ltd (日本)	7% 2072/3/15	120,562
			Sumitomo Life Insurance Co (日本)	6.5% 2073/9/20	120,159
			Mitsubishi UFJ Trust & Banking Corp (日本)	2.65% 2020/10/19	110,258
			Fukoku Mutual Life Insurance Co (日本)	6.5% 永久債	95,686
			Dai-ichi Life Insurance Co Ltd/The (日本)	7.25% 永久債	60,206
			Meiji Yasuda Life Insurance Co (日本)	5.2% 2045/10/20	45,999

- (注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 外国（外貨建）公社債（通貨別）

作 成 期 区 分	当		期			末		
	額 面 金 額	評 価 額		組 入 比 率	う ち B B 格 以 下 組 入 比 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
アメリカ	千アメリカ・ドル 90,600	千アメリカ・ドル 92,262	千円 10,427,461	% 97.9	% -	% 78.1	% 14.6	% 5.2

- (注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。  
 (注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。  
 (注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。  
 (注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。



■投資信託財産の構成

2018年9月25日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	10,427,461	97.7
コール・ローン等、その他	240,599	2.3
投資信託財産総額	10,668,060	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、9月25日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=113.02円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(10,607,890千円)の投資信託財産総額(10,668,060千円)に対する比率は、99.4%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年9月25日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>10,668,060,819円</b>
コール・ローン等	143,152,834
公社債(評価額)	10,427,461,186
未収利息	97,446,799
<b>(B) 負債</b>	<b>19,200,390</b>
未払解約金	19,200,000
その他未払費用	390
<b>(C) 純資産総額(A - B)</b>	<b>10,648,860,429</b>
元本	8,502,447,430
次期繰越損益金	2,146,412,999
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>8,502,447,430口</b>
1万口当り基準価額(C/D)	12,524円

\* 期首における元本額は10,141,968,061円、当期中における追加設定元本額は1,263,584円、同解約元本額は1,640,784,215円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ外貨建て日本社債ファンド2014-03(為替ヘッジあり) 3,700,974,250円、ダイワ外貨建て日本社債ファンド2014-03(為替ヘッジなし) 302,703,622円、ダイワ外貨建て日本社債ファンド(為替ヘッジあり) 2014-08 1,521,331,206円、ダイワ外貨建て日本社債ファンド(為替ヘッジあり) 2014-10 681,960,792円、外貨建てニッポン社債ファンド2015-03(為替ヘッジあり/限定追加型) 459,360,694円、外貨建てニッポン社債ファンド2015-03(為替ヘッジなし/限定追加型) 260,034,635円、外貨建てニッポン社債ファンド(為替ヘッジあり) 2015-09 338,955,059円、外貨建てニッポン社債ファンド(為替ヘッジあり) 2016-03 1,237,127,172円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は12,524円です。

■損益の状況

当期 自2018年3月23日 至2018年9月25日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>268,734,007円</b>
受取利息	268,744,606
支払利息	△ 10,599
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>583,185,647</b>
売買益	775,660,329
売買損	△ 192,474,682
<b>(C) その他費用</b>	<b>△ 652,030</b>
<b>(D) 当期損益金(A + B + C)</b>	<b>851,267,624</b>
<b>(E) 前期繰越損益金</b>	<b>1,647,924,744</b>
<b>(F) 解約差損益金</b>	<b>△ 353,015,785</b>
<b>(G) 追加信託差損益金</b>	<b>236,416</b>
<b>(H) 合計(D + E + F + G)</b>	<b>2,146,412,999</b>
次期繰越損益金(H)	2,146,412,999

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。